

伊東市総合計画 第6回 未来ビジョン会議

グループディスカッション <結果概要>

- 〈開催日時〉 令和6年11月21日（木） 18:30～20:00
- 〈会場〉 伊東市役所8階大会議室
- 〈参加者〉 未来ビジョン会議委員10人（Bグループは別日に開催）
- 〈テーマ〉 伊東市の将来像を描き、将来像実現のための解決策を考える
- 〈意見交換の内容〉

テーマ「伊東市の将来像を描き、将来像実現のための解決策を考える」では、下記にある各グループのテーマにあわせて、**地域・社会のビジョン、対象者・顧客の理想的な未来、変化した後の自分自身の姿勢**について話し合った後に、それに起因する**解決策**を考えた。概要については次頁のとおり。（意見のまとめ方については、各グループのやり方に合わせているため、グループごとに異なります。）

グループ1	グループ3
テーマ1 危機管理・自然・環境・都市	テーマ3 医療・健康・福祉・教育・歴史・文化
小倉 純一	田畑 まどか
辻 駿太	八木澤 恵子
濱崎 優翔	吉田 勇輝
岡田 圭祐	片桐 基至
伊藤 宮之（欠席）	鈴木 奈都菜
上原 啓慎（欠席）	平岡 愛菜

敬称略

■テーマ1 危機管理

○地域・社会のビジョン

- ・ 市民が安心・安全に過ごすことができる。
- ・ 楽しく学べる防災教育の普及
- ・ 消防団に加入する意識を多くの人が持つようになる。
- ・ 災害時に船による輸送や救護活動ができる体制が整っている。
- ・ 観光客がどこに避難すればいいかわかるようなマップがまち中にある。

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 一生、不安を感じない。
- ・ 市民が誘導する観光客避難
- ・ 市外の方が「安全で安心なまち」というイメージで伊東市に訪れる。
- ・ 外国人も安心して旅行ができる。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ ハザードマップの確認や非常食を点検し、充実させる。(自分から行動する。)
- ・ 防災訓練に参加する。
- ・ ご近所とのコミュニケーションを大切にする。

○解決策



■テーマ 2 都市

○地域・社会のビジョン

- ・ 便利でサステナブルなまち
- ・ 住むもしくは起業により、空き家撤廃
- ・ 道路拡幅により渋滞解消
- ・ 公共交通と徒歩で完結し、にぎわいのある中心市街地
- ・ 高校生が集うことでにぎわう。

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 自家用車・公共交通・徒歩どれも楽しめる。
- ・ 鉄道とバスの公共交通定期券、1日乗車券が実現し、安く移動ができる。
- ・ バス運転手が魅力的な職種となり、運転手不足にならない伊東
- ・ 他地域の資本を介さず、自地域の再生資本、支出のみで再生可能エネルギーに投資し、自らの地域でお金を回すようにする。
- ・ シェアサイクルで、中心市街地やその周辺を気軽に移動できる。
- ・ 空き家がサードプレイスとなって、若者も高齢者も居場所のある中心市街地
- ・ 高校生や20代の若者が、徒歩で通える居場所がある。
- ・ 中心市街地にスケボーができる場所がある。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ まちを歩いていい点、悪い点を発見する。
- ・ ずっと伊東に住み続けたいと思う。
- ・ 伊東の良さを SNS で発信する。
- ・ ビーチクリーン活動に参加する。
- ・ 「ふるさと」として、伊東を意識してみる。
- ・ 近隣他地域のサードプレイスや先進的コミュニティに参画し、まちづくりのノウハウを吸収する。
- ・ 電車やバスを使用し、伊東市内の楽しみ方をクローズアップする。

○解決策



■テーマ1 教育

○地域・社会のビジョン

- ・ 市民が子どもの教育に関心を持つ。
- ・ 行政との関わりが見える化
- ・ 温かい人と人のつながりがある。
- ・ 賀茂からも来たい思える伊東市

○解決策

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 積極的に意見が言える。
- ・ 欲しい情報がすぐに手に入る。
- ・ 体験を通じて、郷土愛を持つ人が増える。

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ 自分が感じている問題を、もっと大きなビジョンで解決しようと行動する。
- ・ 地域について、もっと自分からみんなと関わる。
- ・ 困ったとき、誰かに頼ろう、助けてもらおうと意識を持つ。

※ 根本原因の補足

- ・ 学校と行政とのつながりが見えない。
- ・ 伊東にワクワク感がない。
- ・ 地域との関わりが不足している。
- ・ 相互扶助の意識の希薄化
- ・ 互いへの関心に欠けている。
- ・ 地域への安心感がない。



■テーマ2 福祉・医療・健康（高齢者と社会のつながり）

○地域・社会のビジョン

- ・ 高齢者になっても収入を得ることができる。
- ・ 身寄りのない人が社会とつながることができる。
- ・ 図書館や釣具屋など、1人で行っていいところの充実

○対象者・顧客の理想的な未来

- ・ 地域に“つながる”窓口となっている人が増える。
- ・ ペットに限らず、資金不足の団体へクラウドファンディングを活用できるよう、支援してくれる人が増える。
- ・ 見守りロボットなどを活用し、家にいながら、つながることができる。
- ・ 高齢者がスマホやタブレットを使いこなせる。
- ・ 地域にある人的な支援の見える化
- ・ 運転ボランティアの充実

○変化した後の自分自身の姿勢

- ・ 今よりもおせっかいになり、気にかけていく。
- ・ 自分自身が今以上に地域の資源を知るようにする。

○解決策

（高齢者の就労や生きがい・つながり）

- ・ 外国の方を対象とした物販
- ・ 流木ビジネス
- ・ 空き家を活用した荷物の預かり
- ・ 高齢者のeスポーツ教室の開催
- ・ 小学校にて使用するバック作り

